

令和7年度 地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会 情報共有会合 議事概要

1. 日時：令和8年2月6日（金）14:00～16:00
2. 場所：札幌第1 合同庁舎 10 階（共用第1 会議室）
3. 参加者：44 名（web 参加 17 名含む）

北海道大学（1 名）、酪農学園大学（2 名）、北海道開発局（6 名）、北海道運輸局（2 名）、気象庁札幌管区气象台（2 名）、海上保安庁第一管区海上保安本部（1 名）、北海道地方環境事務所（1 名）、北海道（5 名）、札幌市（3 名）、石狩市（1 名）、千歳市（2 名）、厚真町（1 名）、伊達市（1 名）、北広島市（1 名）、日本測量協会北海道支部（1 名）、北海道測量設計業協会（1 名）、北海道G空間情報技術研究会（1 名）、日本写真測量学会北海道支部（2 名）、建設コンサルタンツ協会北海道支部（1 名）、北海道産学官研究フォーラム（2 名）、スペシャリストの会（1 名）、Envision 環境保全事務所（1 名）、Digital 北海道研究会（1 名）、国土地理院北海道地方測量部（4 名）

4. 議事

- ① 開会の挨拶（北海道地方測量部 部長 志田忠広）
- ② 話題提供
 - 1）平成30年北海道胆振東部地震における厚真町の応急対応
～地理空間情報の活用事例と今後の可能性～
厚真町総務課情報防災担当 参事 小山敏史様
 - 2）災害時における地理空間情報の必要性と課題について
伊達市総務部危機管理課 課長 足立勇二様
- ③ 意見交換
- ④ 閉会の挨拶（北海道大学広域複合災害研究センター 特任准教授 川村壮様）

5. 議事概要

はじめに、厚真町の小山様から話題提供をしていただいた。

厚真町は平成30年北海道胆振東部地震で震度7と大規模な土砂災害により甚大な被害を受け、道路寸断や停電で状況把握が困難だった。国土地理院の空中写真は被害の全体像把握に極めて有効で、救助活動の迅速化に寄与した。北部地域の孤立や地域による住民意識の差など復興期の課題も紹介し、現在は避難道路整備や津波対策など、空間情報を活かした防災力向上に取り組んでいるとの説明があった。

次に、伊達市の足立様から話題提供をしていただいた。

有珠山は前兆から噴火までの時間が短く、関係機関と同時に迅速な判断が必要となる。紙地図は停電時でも使え、全体状況を一目で共有でき、UTM グリッドにより位置情報を正確に伝達できる利点がある。さらに、透明シートを地図に重ねて被災状況を反映する運用について紹介があり、今後は教育・訓練による紙地図の活用促進が重要との説明があった。

最後に、「災害発災時に紙地図は必要か？」をテーマとして意見交換を行った。紙地図は停電時でも使え、全体状況を一望できる点が評価され、UTM グリッドを用いた位置共有の重要性についても意見が上がった。一方で、地図の鮮度確保や各機関で使用する地図の統一、更新体制の整備が課題として共有された。さらに、AI 解析やドローン位置管理など新技術の活用可能性も議論され、教育・訓練を含む継続的な運用改善の必要性が確認された。